28amG-006

名城大学薬学生による研究・大学活性化を目的とした活動報告－第2回学生フォーラム開催の概要とその意義について－

○國澤　和生[1], 古関　竹直[1], 平　大樹[1], 近藤　啓太[1], 岩田　綾香[1], 櫛田　真由[1], 中村　瑞瑠[1], 西本　辰也[1], 藤根　和也[1], 森下　将輝[1], 柳本　真弥[1], 平松　正行[1], 鍋島　俊隆[1], 小嶋　仲夫[1]（[1]名城大薬）

6年制課程の薬学教育では、より実践的な薬剤師の輩出はもちろんのこと、自ら問題を抽出し、解決していく自己解決能力を備えた薬剤師の育成が求められている。この能力を身につけるうえで、研究思考能力を磨くことは大変有意義であるが、学生によっては研究に対する動機や意欲に差があり、如何にしてこれらを高め、研究思考能力を養っていくかが大きな課題となっている。われわれ名城大学薬学生は、この課題を達成するために学生が主体となった「名城大学薬学部 研究・大学活性化を目的とした学生フォーラム」を企画・立案し、毎年開催している。本フォーラムの目的は、学生個々の総合的な研究思考能力を向上させることにより、さらなる研究の活性化につなげ、さらに大学の発展に寄与することである。第2回のフォーラムでは、口頭・ポスター発表を合わせ40演題の研究発表を学部 5 年生が中心に発表し、学生が座長を務め、質疑は学生優先で行うなど学生の自主性や積極性を伸ばせるように配慮した。さらに研究のみならず多方面で活躍できる薬剤師を育む事を目的に、多学年交流シンポジウムを企画し、上級生と下級生の間で将来の薬剤師像について互いに発表・討論を行える場を設けた。本フォーラム後、1) 自分自身の成長への寄与、2) 大学活性化に対する貢献度を主とした内容のアンケート調査を行ったところ、自分自身の成長につながると答えた学生は91%、大学の活性化につながると答えた学生は98%であった。また、アンケートに回答した教員の100%が学生の研究や大学の活性化に有用であり、学生の成長につながると回答した。学生が主体となった本フォーラムは研究に対する動機や意欲の向上、活性化に有用であり、大学の発展にも寄与できる教育形態の1つであると考える。